

大東文化大学

語学教育研究所所報

No. 41・42 (合併号)

2019年3月

目 次

2017・2018 (平成 29・30) 年度活動報告	1
2017・2018 (平成 29・30) 年度語学教育研究所運営委員及び研究員	2
客員研究員	3
研究員研究分野の紹介	3
2017・2018 (平成 29・30) 年度研究発表会・講演会	4
刊行物について	12
語学教育研究所規程の改正	12

2017・2018 (平成 29・30) 年度活動報告

語学教育研究所所長 中道 知子

大東文化大学語学教育研究所は、1983年(昭和58年)に開設された外国語学部の附置研究所で、外国語教育並びに言語学に関する研究の発展を主な目的に据えた活動を続けてきました。5つの言語分野(中国語、英語、日本語、フランス語、ドイツ語)から選出された研究員は、それぞれの研究テーマで鋭意研究に取り組み、研究発表会で発表しています。また、各言語分野ごとに、内外の研究者を招いて講演会を開催し、海外からの研究者を客員研究員として受け入れて、学术交流及び共同研究を行っています。

研究所全体としては、学術雑誌(『語学教育研究論叢』、『語学教育フォーラム』)の発行を継続しています。

今後も、言語学・外国語教育・文学・文化等の多彩な分野の専門家を擁する外国語学部の特色を生かし、国際的に活躍できる人材の育成、及び学問の発展に貢献できるよう努める所存です。どうぞ宜しくお願いいたします。

なお、所報41・42号は合併号といたしました。

2017・2018年度 語学教育研究所運営委員及び研究員

2017年度 語学教育研究所運営委員

所 長 中道 知子 外国語学部日本語学科
研究部会長 齋藤 俊輔 外国語学部英語学科
学 部 長 大島 吉郎 外国語学部中国語学科
学科主任 山口 直人 外国語学部中国語学科
学科主任 静 哲人 外国語学部英語学科
学科主任 須田 義治 外国語学部日本語学科
研究科委員長 大月 実 外国語学部英語学科
委 員 丁 鋒 外国語学部中国語学科
委 員 ロバート シグラー 外国語学部英語学科
委 員 須寄 文明 外国語学部英語学科
委 員 中村 隆之 外国語学部英語学科
委 員 藏中 しのぶ 外国語学部日本語学科

2017年度 語学教育研究所研究員

部会長 齋藤 俊輔 外国語学部英語学科
研究員 吉田 慶子 外国語学部中国語学科
研究員 森 路未央 外国語学部中国語学科
研究員 北林 光 外国語学部英語学科
研究員 小野寺 賢一 外国語学部英語学科
研究員 姫田 麻利子 外国語学部英語学科
研究員 田中 寛 外国語学部日本語学科

2018年度 語学教育研究所運営委員

所 長 中道 知子 外国語学部日本語学科
研究部会長 齋藤 俊輔 外国語学部英語学科
学 部 長 高尾 謙史 外国語学部英語学科
学科主任 山内 智恵美 外国語学部中国語学科
学科主任 鈴木 敬了 外国語学部英語学科
学科主任 須田 義治 外国語学部日本語学科
研究科委員長 大月 実 外国語学部英語学科
委 員 ジェリー・ジョンソン 外国語学部英語学科
委 員 小野寺 賢一 外国語学部英語学科
委 員 姫田 麻利子 外国語学部英語学科
委 員 藏中 しのぶ 外国語学部日本語学科

2018年度 語学教育研究所研究員

部会長 齋藤 俊輔 外国語学部英語学科
研究員 吉田 慶子 外国語学部中国語学科
研究員 森 路未央 外国語学部中国語学科
研究員 北林 光 外国語学部英語学科
研究員 荒又 雄介 外国語学部英語学科
研究員 野澤 督 外国語学部英語学科
研究員 田中 寛 外国語学部日本語学科

客員研究員

氏名： 于 增輝
所属： 中国・肇慶学院日本語学部
期間： 2017年6月1日～2017年8月31日
研究テーマ： 「日本における漢文小説と中古漢語語彙」一言語接触の視点から—

氏名： 李 冬松
所属： 中国・国立暨南大学
期間： 2017年7月20日～2018年7月19日
研究テーマ： 中日近代漢語の交流 —— 「国民性」を中心に

氏名： 黄 偉
所属： 中国・安徽財經大学文學院日本語学科
期間： 2018年2月20日～2019年2月19日
研究テーマ： 日本語と中国語における否定接頭辞「非」（“非”）に関する対照研究

研究員分野の紹介

氏名： 齋藤 俊輔
所属： 外国語学部英語学科（英語）
分野： ポルトガル語圏研究

氏名： 吉田 慶子
所属： 外国語学部中国語学科（中国語）
分野： 通訳翻訳教育・日中言語文化交渉

氏名： 森 路未央
所属： 外国語学部中国語学科（中国語）
分野： 中国経済論・農業経済学

氏名： 北林 光
所属： 外国語学部英語学科（英語）
分野： ヨーロッパ研究（イギリス文化史）

氏名： 小野寺 賢一
所属： 外国語学部英語学科（ドイツ語）
分野： 近代ドイツ思想・文学

氏名： 姫田 麻利子
所属： 外国語学部英語学科（フランス語）
分野： フランス語教育・異文化間教育

氏名： 荒又 雄介
所属： 外国語学部英語学科（ドイツ語）
分野： 近代ドイツ文化・文学

氏名： 野澤 督
所属： 外国語学部英語学科（フランス語）
分野： フランスの旅行記文学・文体論

氏名： 田中 寛
所属： 外国語学部日本語学科（日本語）
分野： 日本語学・対照言語学・日本語教育学

研究発表会

日時： 2017年6月19日（月）

発表者： 田中 寛（外国語学部日本語学科）

題目： タイ語の移動動詞表現の意味拡張—日タイ語対照研究の観点から—

概要： 移動動詞は動詞のなかでもダイクシス的性格を有する基本動詞である。本発表ではタイ語の移動動詞 *pay/maa* について、1) 本動詞、2) 動詞連続句（連動句）、3) 方向動詞としての補助動詞構文、の用法を日本語「イク／クル」、「～ニイク／クル」、「～テイク／クル」との比較対照の観点から考察する。本来の意味機能からの拡張、すなわち空間的移動から心理的移動への拡張を検証する。慣用的な諸例についても検討を加えたい。

日時： 2017年6月19日（月）

発表者： 森 路未央（外国語学部中国語学科）

題目： 中国 “世界の工場” 何処へ？

概要： 1990年代に“世界の工場”と称され始めた中国。2000年代中ごろには、賃金上昇、労働者不足が顕在化し、ルイスの転換点を迎えた。2010年代になるとグローバル市場に供給する在中国の工場が ASEAN、中国内陸部、既存工場周辺地域に移転または増設するケースが増加している。本報告ではこの現状と背景および貿易や生産ネットワークへの影響を紹介する。

日時： 2017年10月16日（月）

発表者： 齋藤 俊輔（外国語学部英語学科）

題目： 群馬県大泉町と外国人コミュニティ多文化共生について考える

概要： 群馬県邑楽郡大泉町はブラジル国籍の住民が多く、関連店舗が林立することから、「ブラジルタウン」とも呼ばれる。大泉町のブラジルタウンとしてのイメージは1990年代から研究者や大手メディアによって取り上げられてきた。しかしながら、近年ではブラジル人以外の外国人の増加によって、その実態は変化しつつある。本発表では、ブラジルタウンの形成と現状を踏まえ、新たな外国人の増加が大泉町にどんな影響を与えているのかを考えたい。

日時： 2017年11月20日（月）

発表者： 吉田 慶子（外国語学部中国語学科）

題目： 上海共同租界の会審通訳に関する調査

概要： 上海公共租界の会審公廨（The Shanghai Mixed Court）は、1864年に清政府の上海道台はイギリス、アメリカなどの領事と『洋涇浜設官会審章程』を定め、そのより租界に設置した裁判機関である。1928年中国政府に回収されるまで約60年の間、租界内において裁判機関としての機能を果たし、その間多くの民事、刑事事件を審議した。

本研究は、会審公廨の通訳に焦点を当て、通訳人はどのように会審公廨に関わり、役割を果たしていたのか、関連史料からその解明を試みる。

日時： 2017年11月20日（月）

発表者： 小野寺 賢一（外国語学部英語学科）

題目： ベンヤミンにおける想起の問題ー『ベルリンの幼年時代』収録の散文「凱旋記念塔」と「ティーアガルテン」を例として

概要： 記憶と想起はベンヤミンが取り組んだ主要な問題のひとつである。本発表ではベンヤミンの想起のコンセプトについてごく手短な解説を行ったうえで、散文「凱旋記念塔」ならびに「ティーアガルテン」における想起のあり方について検証する。また、これに関連

して、1900年頃のベルリンの中心部がどのような構造をしていたのかについても紹介する予定である。

日 時： 2017年12月18日（月）

発表者： 姫田 麻利子（外国語学部英語学科）

題 目： 言語レパトリーを表す自画像

概 要： 移動経験者を対象に行っている言語ポートレート調査（自分と言語との関係を表した自画像）についてご紹介します。今回の発表ではとくに、日本人大学生の留学前後のポートレートの変化や、「移動する子ども」だった大学生のポートレートに注目し、従来の言語教育で目標とされてこなかった能力について考えたいと思います。

日 時： 2017年12月18日（月）

発表者： 北林 光（外国語学部英語学科）

題 目： Geolinguistics and related linguistic terminology

概 要： Geolinguistics as a term has taken on different meanings over the last 70 years and has come to be confused with various other linguistic terms, such as language geography, linguistic geography, contact linguistics, areal linguistics, and dialectology. This talk will attempt to clarify areas of overlap and difference between these various term. It will also seek to clarify why and how the confusion in terminology came to take place.

日 時： 2018年6月18日（月）

発表者： 黄 偉（語学教育研究所客員研究員）

題 目： 日本語と中国語における否定疑問文の意味機能に関する対照研究

概 要： 「お怪我はありませんか？」のように、日本語の否定疑問文は、勧誘機能と丁寧な問い掛けの意味を持つ。これに対し、中国語では、形式的に対応する否定疑問文“没摔伤吗？”は、勧誘機能を持たないだけでなく、失礼な印象を与えることもある。本発表では、日本語と中国語における否定疑問文の用法を考察する上で、両者の異なる意味機能の特徴と原因について分析する。また、“摔伤了没？”“摔伤了没有？”のように、ある程度日本語の否定疑問文に対応する中国語の肯定疑問文や反復疑問文についても分析し、日中両語の語用機能の相違点を考察する。

日 時： 2018年6月18日（月）

発表者： 北林 光（外国語学部英語学科）

題 目： On the Translation of Triolets into English 「トリオレーの英訳について」

概 要： Poetry is an art form, where words are used instead of paint. In order to create beauty, sound combinations and rhythm often become more important than the meaning of individual words. The translation of poetry from one language to another always involves difficult choices. Should the surface meaning be translated or should the intended meaning be translated? Moreover, should one try to mimic the prosodic features of one language in another? These matters will be discussed with regard to translating French and German triolets into English. It will be maintained that priority in translation should be given to prosodic features, as they intend to be more important than the lexical meaning of individual words.

詩は絵の代わりに言葉が使われる芸術形態の1つです。美しさを生み出すためには、個々の言葉の意味よりも音の組み合わせやリズムが重要になることがよくあります。ある言語から別の言語への詩の翻訳をするには、いつも難しい選択を迫られます。表面上の意味が翻訳されるべきでしょうか？ それとも意図された意味の方が翻訳されるべきでしょうか？ さらに、我々はある言語の韻律的特徴を別の言語にも模倣すべきなのでしょうか？ これらの問題は、フランス語とドイツ語のトリオレーを英語に翻訳することに関して議論が進められていきます。個々の単語の語彙的意味よりも重要であることを意図しているため、翻訳の優先順位は韻律的特徴から付けるべきであるということはこれからも主張されます。

日 時： 2018年10月15日（月）

発表者： 齋藤 俊輔（外国語学部英語学科）

題 目： 群馬県大泉町における住民の多国籍化とまちづくり

一大泉町観光協会の活動と役割

概 要： 群馬県大泉町は外国人人口が18パーセントを超える外国人集住都市である。そのうち、10パーセントはブラジル国籍住民で、町内には彼らの経営する商店や会社などが多くみられる。このため、大泉町はこれまでブラジルタウンとして観光地化を図ってきた。観光地化を担ったのは、大泉町観光協会と呼ばれる組織である。ところが、近年外国人住民の多国籍が進み、とくにネパール国籍やペルー国籍住民の活動が目立って行われるようになってきた。こうした状況を踏まえ、今年度から同協会はブラジルタウンからさまざまな国籍の住民を取り込んだ観光イベントを行うようになってきている。本発表ではこうしたブラジル以外の外国籍住民を巻き込んだ観光協会の活動とその役割について考えてみたい。

日 時： 2018年10月15日（月）

発表者： 吉田 慶子（外国語学部中国語学科）

題 目： 中国語の「衙門」から「法院」の変遷

概 要： 本発表は、中国語の「衙門」、「法院」の語源調査を通じて、中国の近代概念の移入、受容過程を示すことに重点をおく。事例を通して、西洋新概念の移入と社会状況の変化は語彙の形成にどのように影響を与えるのかを示し、中国法律用語の近代化の特徴を考察する。

日 時： 2018年11月19日（月）

発表者： 荒又 雄介（外国語学部英科 外国語学部英科）

題 目： 「アナトール序曲」を通して見る **Wiener Moderne** の若者たち

概 要： 一般に「世紀末ウィーン」と呼ばれる19世紀末のウィーン文化については、日本でもすでに一定のイメージが形成されていると思われる。ハプスブルク王朝の最後の華やき、爛熟期を迎えた市民文化、滅びゆく時代の内に胎動するモデルネ、など、その枚挙にいとまがない。ところが、音楽（マーラー、シェーンベルク）、芸術（クリムト、シーレ）、精神分析学（フロイト）などへの高い関心はともかく、この時代文学については、日本の一般読者明確な像が結ばないようである。本発表では、この時代の代表的な作家フーゴ・フォン・ホーフマンスタールがアルトゥーラ・シュニッツラーの戯曲に寄せた序文を手掛かりにして、この時代の文学新潮流とそれを担った若い作家たちを紹介する。

日 時： 2018年11月19日（月）

発表者： 田中 寛（外国語学部日本語学科）

題 目： 中国の「一帯一路」政策と外国語教育・研究—タイ語の教育・研究を例に—

概 要： 中国の「一帯一路」政策にともない、海外進出する企業が増え続けるなか、人的接触、交流も加速している。この場合自国文化・言語輸出と同時に対象国の文化・言語にも関心が向けられることになるが、本発表では東南アジアでもっと進出が著しいタイ国を例に現在中国で行われているタイ語教育・研究の一端を紹介し、複数の教科書を例にその特徴を考察してみたい。（本発表は2018年度海外特別研究の報告一部である）

日 時： 2018年12月17日（月）

発表者： 森 路未央（外国語学部中国語学科）

題 目： 中国における自動車産業のパラダイム転換

概 要： 自動車の生産・販売台数が年間3000万台の万台に迫る中国においては近年、ICE

車（ガソリン車やディーゼル車）から EV 車を中心とした新エネルギー車への急速な生産転換、投資制度の緩和などの変化がみられる。本報告では WTO 加盟以降の自動車産業にかかる政策および生産・販売台数の推移を振り返り、近年の変化にかかる背景や新たな政策を整理し、今後を展望する。

日 時： 2018 年 12 月 17 日（月）

発表者： 野澤 督（外国語学部英語学科）

題 目： シャトーブリアンの『モンブラン紀行』から考える前ロマン主義時代における現実描写の諸問題

概 要： François-René de Chateaubriand（1768-1848）は旅行記ジャンルにロマン主義的性格を与えたと言われ、それは旅行者の主體的な感性や想像力へと訴えかけてくる外界を描出することにあると考えられる。本発表では、彼の『モンブラン紀行』につけられたエピソードを出発点としてこの時代の現実描写の問題点を整理する。他にも『風景画におけるデッサン術に関する書簡』やシャトーブリアンと同時代の作家 Senancour（1770-1846）の『描写における文体について』を取り上げ、前ロマン主義時代の現実描写の争点を理解することを試みる。

講演会

日 時： 2017 年 6 月 2 日（金）板橋校舎

講演者： シリル・コピーニ 氏（フランス人落語パフォーマー）

演 題： 文化を仲介する力：尻流複写二の落語パフォーマンス

日 時： 2017 年 10 月 20 日（金）板橋校舎

講演者： 西村 健佑 氏（筑波大学客員研究員）

演 題： ドイツのエネルギーについて、移民の視点で考えてみる
ー総選挙目前！ドイツを例に考える

概 要： ドイツはエネルギー問題について積極的に取り組み、世界でも類を見ないエネルギー転換という社会変革を成し遂げようとしています。一方で、ドイツの電気代が高くなっているなど、問題点も日本のメディアで報道されています。また、ドイツは昨年来難民・移民問題で揺れています。エネルギーと移民は日本も将来避けて通れない重要なテーマです。10月22日の選挙を前に、ドイツで移民として暮らす日本人が現地の現状について報告します。

日 時： 2017年10月26日（木）東松山校舎

講演者： 定延 利之 氏（京都大学大学院文学研究科教授）

演 題： 環境とのインタラクションに根ざした文法

概 要： 部屋の中で自分が前に一歩歩くと、それまでとは違った視野が開ける。つまり自分を取り巻く部屋（環境）が、自分の前進に応じて、それまでとは違った視界を自分に返してくる。それで自分が「なるほど、前方の様子はよくわかった。それでは」とまで思わなくていいのですが、今度は左に一歩動くと、環境がそれに応じて、また違った視界を自分に返してくる。「環境とのインタラクション」と言うと難しそうに聞こえますが、要はこういうことです。このような、我々が生まれた時から、少なくとも意識のある間じゅうやっている、珍しくもない「環境とのインタラクション」は、実は日本語の文法に強い影響を与えています。講演ではそのことを具体的にお話ししたいと思います。

日 時： 2017年11月17日（金）板橋校舎

講演者： 箱崎 大 氏

（日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部 中国北アジア課 課長）

演 題： 最近の中国経済と日本企業の中国ビジネス」

概 要： 中国の経済成長率は2007年の14.2%（前年比）をピークに低下が続き、2016年は6.7%となりました。現在、中国では少子高齢化の進展、生産能力と債務の過剰、賃金上昇、投資の伸び率の低下などネガティブな状況が続きつつも、サービス産業の発展、ネット通販を中心とした消費の増加などポジティブな状況も併存しています。こうした中で、中国進出日系企業の事業活動は如何なる状況にあるのでしょうか。講演では、日本の対中直接投資、日本企業の進出事例、日中貿易から中国事業の魅力と課題、日系企業にとっての中国の位置づけを再検証します。

日 時： 2018年1月10日（水）板橋校舎

講演者： フィンク・ウィン 氏

演 題： Cuban Cinema at 100 Years: Language and Image

概 要： The Cuban cinema industry has existed for almost 120 years. Although eclipsed by American cinema and Hollywood, especially. The Cuban film industry, over the decades, produced a large number of significant films that depict the Cuban reality and daily existence from pre-revolutionary days, through the revolution and post-revolutionary period. Many of these films have won awards, both locally and internationally, and are recognized globally.

日 時： 2018年5月30日（水）板橋校舎
講演者： Robert Levine 氏（オハイオ州立大学教授）
演 題： Introduction to Categorical Grammar
概 要： 統語論の一理論であるカテゴリ文法(Categorical Grammar)についての入門的内容をお話し頂き、言語における削除(ellipsis)等の現象を分析する上でカテゴリ文法をどのように応用できるか、ご自身の研究を一部紹介して頂きます。使用言語は英語。

日 時： 2018年7月8日（日）板橋校舎
講演者： 古川 典代 氏（神戸松陰女子学院大学教授）
演 題： 日本における中国語通訳の現状と通訳教育について
概 要： 大東文化大学大学院外国語学研究科中国言語文化学専攻・外国語学部中国語学科と共同開催する国際シンポジウム「中国語教育と日中翻訳」の一環として行われるものである。

日 時： 2018年11月29日（木）東松山校舎
講演者： 松本 侑子 氏（作家・翻訳家／日本ペンクラブ常務理事）
演 題： 作家の仕事、翻訳家の仕事
概 要： 大学時代から作家になるまで、そして現在まで。主に『赤毛のアン』の翻訳について、翻訳の楽しさ、難しさについて語ります。また、金子みすゞの生涯についても近作にそって紹介したいと思います。

日 時： 2018年12月12日（水）板橋校舎
講演者： 水谷 陽子 氏（NHK エデュケーショナル 語学部シニアプロデューサー）
演 題： ワークショップ「語学教育番組はどのように作られるか」

日 時： 2019年1月10日（木）東松山校舎
講演者： 高橋 透 氏（早稲田大学文学学術院教授）
演 題： 宮崎駿『風の谷のナウシカ』と
押井守『攻殻機動隊』で学ぶ人工知能とサイボーグ
概 要： 宮崎駿『風の谷のナウシカ』と押井守『攻殻機動隊』は、昨今大きな話題となっている人工知能や実現しつつあるサイボーグをテーマにした、深い洞察に満ちた作品である。現実の人工知能技術・サイボーグ技術と突き合わせながら、この2作品を読み解き、人間のこれからの行く末を哲学的に探求する。

刊行物について

『語学教育研究論叢 35 号』(2018 年 3 月刊行)

『語学教育研究論叢 36 号』(2019 年 3 月刊行予定)

『語学教育フォーラム 33 号』(2018 年 3 月刊行)

『語学教育フォーラム 34 号』(2019 年 3 月刊行予定)

語学教育研究所規程の改正

主な改正点：語学教育研究所規程の第 6 条（研究員）に、（5）特別研究員（大東文化大学外国語学研究科において博士号を取得した研究員）を設ける。

改正の趣旨：本学外国語学研究科において博士号を取得した者に対して、語学教育研究所の研究員という所属を与えることによって、その後の研究者としての進路への援助とする。

施行予定日：2019（平成 31）年 4 月 1 日

大東文化大学語学教育研究所所報 No. 41, No. 42

2019年3月31日

編集発行 大東文化大学語学教育研究所

〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1

TEL 03(5399)7329

FAX 03(5399)7381

印刷所 株式会社東京技術協会